

ブックランドあしよろ I

■ 事業のねらい

非日常空間で読書活動を行うことで、読書への興味・関心を引き出す。また、規則正しい生活リズムの中で読書に親しみ、読書が生活習慣の一部になるきっかけづくりを行う。



- 実施日 平成24年7月7日(土)～8日(日) 1泊2日
- 参加対象 小学3年生～中学3年生 20名
- 参加実績 参加者：13名
 小1＝1名、小2＝1名、小3＝4名、
 小4＝3名、小5＝4名
 男子＝3名、女子10名
 運営協力者：一般1名、大学生3名
- 備考 活動場所：足寄町(道立足寄少年自然の家と近隣の森林、公園)
 協力：絵本の会「はらっぱ」、おはなし「たんぼぼ」
 音更町図書館

1 事業実施の背景



現在、様々な情報メディアの普及により、子どもたちの読書離れが問題となっている。読書活動への多彩なアプローチを体験することで、自ら読書の奥深さと楽しさに気づき、自発的な読書活動へとつながっていくことができる。また、熟読できる読書環境を整え、多様なものの見方や考え方をすることで、目の前のなにげない出来事に感動する心が芽生えてくる。

特に、子どもにとっては、生活習慣の中に読書活動が組み込まれることで、生き方や価値観の形成に大きく影響を与えていく。

本事業では、読書の楽しさやそこから得られる感動を味わうことで、自発的な読書活動へと導き、読書習慣の定着につながるきっかけづくりを行う。

2 プログラムデザイン

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
7/7 (土)								受付	開 会 式	仲 良 く な ら う	野外で読書を楽しもう ☆風の音、川のせせらぎ、野鳥の鳴き声を聞きながらゆったり のんびり読書三昧		入 浴 食 タ	読 み 聞 か せ 賞	読 自 由 交 書 流	就 寝 準 備	就 寝
7/8 (日)	起 洗 床 面	朝 食	清 掃 ・ 準 備	朝 読 書	ポ ッ プ づ く り ☆お気に入りの本の紹介をしよう	サ ン ド ウ イ ッ チ を 作 っ て 食 べ よ う ☆何をトッピングするかお楽しみ		ふ り か え り 式	閉 会	解 散 14:00							

■ アクティビティについて



■ 意図

- 足寄の豊かな自然の中で、風の音、川のせせらぎ、小鳥のさえずりを聞きながら普段と異なる環境での読書活動をとおして、多彩な本へのアプローチ方法と自然の素晴らしさ・尊さ・美しさを体感する。
- 近隣図書館から借用してきた多種類にわたる本の中から自分で選択して熟読することによって、読書に対する興味・関心を引き出す。

■ 留意事項

- 森林の移動では、歩行上困難な沼地や小川を渡る箇所もあるため、事前の実地踏査を含め、綿密な行動計画を策定した。
- 事業趣旨を達成するため、屋外での読書活動では、班付リーダーのほかにメインリーダーを立て、職員を含め全体の状況を見ながら対応した。
- 読書活動で気に入った本を紹介する「ポップ作り」に挑戦することで、自分が読んだ本への愛着と読書に対する奥深さと楽しさを発見できる工夫をした。また、クッキングでは、絵本の中に出てくるサンドイッチを実際に調理することで、想像力を高め、本の世界を表現するおもしろさを体験できるプログラムとした。

3 活動の様子



■ 当日の様子

一日目は、屋外での読書活動で、全員が集中して読書を楽しむ場面があった。普段あまり本を読まない子どもたちも自然環境の中ではゆったりと、そして真剣に読書を楽しんでいた。中には、森林にいた昆虫を図鑑で調べている場面も見受けられた。夕食後は、足寄町で読み聞かせ活動を行っている「絵本の会 はらっぱ」と「おはなし たんぼぼ」による朗読や読み聞かせ、紙芝居を行った。参加者全員が場面を想像して喜怒哀楽の表情を浮かべ、熱心に聞き入っていた。

二日目は、30分の朝読書に続き、自分のお気に入りの本を紹介する「ポップ作り」に挑戦した。書店で目にするポップを想像しながら、イラストを入れたり、自分の思いを込めた文章を載せたり、工夫を凝らしたポップを完成させていた。昼食は、「絵本の世界のサンドイッチ作り」に挑戦した。絵本「ぐりとぐらとくるりくら」を朗読し、想像力を高め本の世界を具現化する楽しさを実感していた。また、その他にも、パンにはさむ具材を調理し、本の世界に留まらず、それぞれオリジナルサンドイッチを考案して食べた。

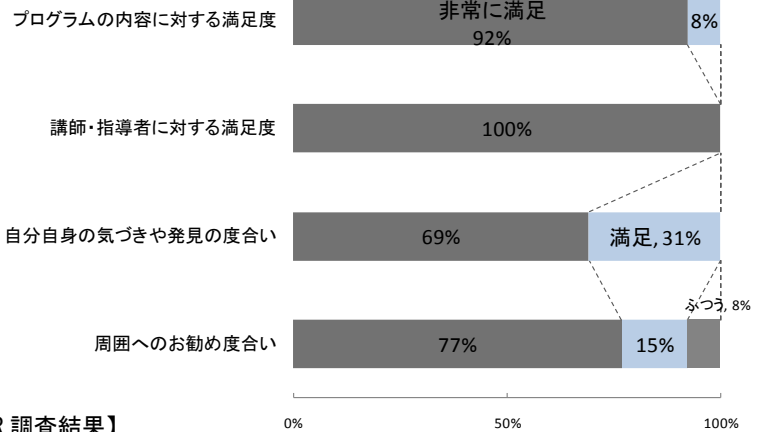
■ 参加者の声

- 自然の中で本を読むときに、小鳥のさえずりや、虫の声、川の流れる音を聞きながらゆったり本を読めた (小3女子)
- 森の中で寝転がって本を読んだのがとても気持ち良かった (小5女子)
- 紙芝居は、色々な物で音を出してくれてすごく楽しかった (小5男)
- ポップづくりは、絵をかいたり、色をつけたり、みんなで笑いながら、作ったのが心に残っています (小3女子)

4 事業評価



5 まとめ



■ 参加者の変容【IKR 調査結果】

「視野・判断」「積極性」「交友・協調」、「自己規制」、「日常的行動」はいずれも0.9ポイントの上昇が見られた。

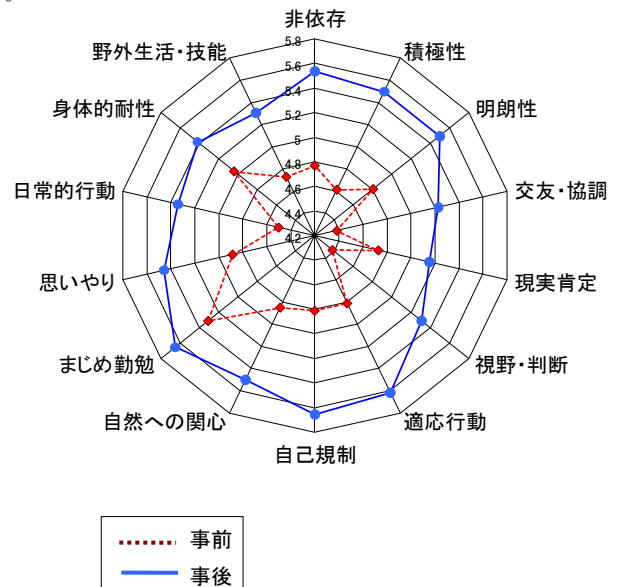
■ 結果の分析・考察

① 野外フィールドの活用

非日常空間として野外での読書活動を行った。草花の色や香り、鳥のさえずり、虫の声、風、水のせせらぎなどが五感を刺激し、効果的な活動になったと考える。

② 読書環境の充実

近隣図書館から大量に図書を借用して様々なジャンルの本を揃え、ソファや畳を用意し、読み聞かせも実施したことで、本への興味・関心が高まり、熟読につながったと考える。



■ 成果

- 屋外での読書活動、読み聞かせ、ポップ作り、絵本の中のサンドイッチ作りなどと読書活動への多彩なアプローチを取り入れたことで、読書の楽しさを引き出すプログラム構成に上げることができた。
- おすすめ本の「ポップ作り」をとおして、今回の読書活動のふりかえりができ、本への愛着と読書の世界へ引き込まれる熟読の醍醐味を再認識できた。

■ 課題・今後の方向性

- 小学生1年生からの参加希望もあり、定員に余裕があったため、受け入れることとした。周知方法の見直しや学校行事との重複を避ける日程にするなど、参加者を集めるための工夫が今後の課題である。
- 読書活動を行う時間が少なかった。幅広いジャンルの本を集め、読書する場所も選択できる読書環境を築いたが、その環境を生かすできなかった。今後は、読書環境の充実とともに、十分な読書時間を確保したプログラムを組み入れていく必要がある。

子どもの読書活動の普及や啓発を図るプログラム